

# マキアヴェッリ Machiavelli 1469 ~ 1527

イタリアの政治思想家。正式の名はニコロ・ベルナルド・マキアヴェッリ。

1469年にフィレンツェで生まれる。家系はトスカナ地方の貴族であり、父は学問好きの法律家であった。人文主義の伝統があるフィレンツェに生活した彼は、幼少の頃からラテン語の学習に励み、ローマの古典を好んだという。読書の蓄積と研究の修行時代を経て、29歳でフィレンツェ政庁書記官(官僚)となり、以後15年間、現実政治のなかで外交と軍事にたずさわった。

イタリア諸都市を含めフランス、ドイツ、スイスで活躍したマキアヴェッリは、33歳のとき、当時ロマーニャ征服を開始しフィレンツェを脅かしつつあったチェーザレ・ボルジアと交渉し、ボルジアの途方もない人物像に魅了されてしまう。彼はそこに都市国家を超えたイタリア統一の君主を見出したことになるが、翌年、ボルジアは、父親で後盾となっていた教皇アレクサンドロ6世の急死により失脚する。その後、教皇ユリウス2世は、教皇権によるイタリア統一を企図し、各都市国家やフランス、ドイツと合従連衡を繰り返した。フィレンツェではメディチ家が実権を握っており、1512年、マキアヴェッリは反メディチ家陰謀の疑いで免職され、翌年投獄された。恩赦で釈放された後は、彼は近郊のサンタンドレアの山荘に引きこもり、『君主論』『政略論』など主著を著した。その後も執筆活動を続け『マンドラゴラ』などの諷刺喜劇を執筆し人気を博する一方で、『フィレンツェ史』の執筆も進めた。

1520年代に入ると、イタリアに列強が進軍するいわゆる「イタリア戦争」が起こり、マキアヴェッリは城壁防衛委員となるも、フィレンツェ内部の暴動により罷免され、翌1527年に死亡した。

## Great Books 18 君主論(II principe)

本書は26章からなる君主教育論で、1513年に完成(ロレンツォ・メディチへの献辞と最終26章にメディチ家への意見を述べた章を除く)されたが、公刊されたのはマキアヴェッリの死後の1532年であり、当初は写本により知友の間に回覧されるにとどまった。

1章から11章までは、世襲ではない新君主の君主国について語った章である。君主自身の軍隊と能力(ヴィルトゥー)によって得られた君主国ではなく、他者(他国)の軍隊と幸運(フォルトゥーナ)によって得られた君主国について提言する。次いで12章及び13章では、傭兵軍・自国軍などの軍隊の長所や短所を分析し、結論として、君主は自分の軍隊を持つべきであるとした。14章から24章までは、あるべき新君主の姿勢と行動を提示する。君主は鷹揚であるという評判を得ようとする強欲になるので、吝嗇であるほうがよく、愛されるより恐れられる君主の方が望ましいとした。例としてチェーザレ・ボルジアが挙げられ、彼の残酷さがロマーニャに統一をもたらす平和を回復したと結論し、人間は恩知らずで独善的であるから優しくすればつけ上がり、逆に恐れは安定を生むと説いた。このように、ここではこうした新君主が持つべき能力(ヴィルトゥー)の具体例が散りばめられている。25章では、幸運を自らに引き込まなかったために失脚したチェーザレ・ボルジアを念頭におきながら、君主は幸運(フォルトゥーナ)を自身で捉えることが必要だと説く。そして最終章の26章では、イタリアに侵入する蛮族を解放できるのは、メディチ家において他はないと記述している。

本書の主な特徴は、よい権力悪い権力の区別をせず、そこに存在している権力を考察する。名君と暴君という王の区別をしていない。政治学と倫理学を関連づけて考察していない。君主の最大の課題は軍事問題であるとしたことなどである。

こうした特徴は、マキアヴェッリが自ら生きたルネッサンス末期のイタリアの政治及び文化状況を分析したという事実を示している。倫理の規範としてではなく現実政治から政治を考える彼の観点は、近代的な国家観や政治学の出発点とされている。

## Key Phrase 武装せる預言者はみな勝利をおさめ、備えのない預言者は滅びる

武装せる預言者はみな勝利をおさめ、備えのない預言者は滅びるのだ。それは、先に述べた理由のほかに、民衆の気質が変わりやすいこと、そのことにもよる。つまり、民衆に何かを説得するのは簡単だが、説得のままの状態に民衆をつなぎとめておくのがむずかしい。そこで、人びとはことばを聞かなくなったら、力をもって信じさせるように、策を立てなければならない。

< 池田廉(訳) 『マキアヴェッリ全集 1』 「君主論」第6章 筑摩書房 >

1494年、フィレンツェにフランス軍が迫ると、市民は修道士サヴォナローラの共和制に基づく神権政治を選択した。しかしこの狂信的な聖職者は教皇によって破門され、異端の罪で火刑にされた。マキアヴェッリは神の栄光と政治の悲劇を観察して考える。人々の魂の改革だけで政治の改革を期待することはむずかしい。そして、成功のためにはあらゆる政治的・軍事的手段の行使が必要であり、政治は宗教に奉仕するのではなく合目的な論理に従うべきだと、結論づけるのである。

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 マキアヴェッリ全集1 君主論 戦争の技術 カストルッチョ・カストラロ - 二伝 / 池田廉(ほか訳)  
筑摩書房 1998年刊 366p <087GG/101/1> 資料番号 21090865
- 📖 君主論(岩波文庫) / 河島英昭(訳)  
岩波書店 1998年刊 387, 3p <1311/マ> 資料番号 21054283
- 📖 世界の名著 16 マキアヴェリ / 会田雄次(編)  
中央公論社 1966年刊 638p <080/5/16> 資料番号 12784344  
\* 『君主論』池田廉(訳)
- 📖 世界文学大系 74 ルネサンス文学集 / 二宮敬(ほか訳)  
筑摩書房 1964年刊 429p <908/18/74> 資料番号 11873098  
\* 『君主論』野上素一(訳)
- 📖 Great books of the Western World vol.23 Machiavelli. Hobbes / Robert Maynard Hutchins(ed.)  
Encyclopaedia Britannica 1989年刊 283p  
<080/G/23> 資料番号 20257382

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 マキアヴェッリ(叢書・ユニベルシタス) / ルネ・ケーニヒ(著) 小川さくえ, 片岡律子(訳)  
法政大学出版局 2001年刊 372p <289.3KK/1524> 資料番号 21432547
- 📖 マキアヴェリの孤独 / ルイ・アルチュセール(著) 福井和美(訳)  
藤原書店 2001年刊 562p <135.56KK/4> 資料番号 21431424
- 📖 マキアヴェッリと『君主論』(講談社学術文庫) / 佐々木毅(著)  
講談社 1994年刊 328p <289.3/1222> 資料番号 20653440
- 📖 マキアヴェリズム(講談社学術文庫) / 西村貞二(著)  
講談社 1991年刊 327p <311.23/167> 資料番号 20419297
- 📖 マキアヴェリ(中公新書) / 家田義隆(著)  
中央公論社 1988年刊 209p <289.3W/846> 資料番号 12368379
- 📖 マキアヴェリ / マルセル・ブリヨン(著) 生田耕作, 高塚洋太郎(共訳)  
みすず書房 1987年刊 302p <289.3W/847> 資料番号 12368387
- 📖 わが友マキアヴェッリ / 塩野七生(著)  
中央公論社 1987年刊 479p <F1U/S118/5> 資料番号 12767851
- 📖 マキアヴェッリの政治思想 / 佐々木毅(著)  
岩波書店 1970年刊 357p <311.23/211> 資料番号 21451943
- 📖 サマセット・モーム全集 第13巻 昔も今も / 清水光(訳)  
新潮社 1955年刊 180p <938/7/13> 資料番号 12134482